

刊行にあたって

財団法人新潟教育会

理事長 杉 浦 隆 夫

財団法人新潟教育会の新潟教育研究所では、第4回教育調査研究報告書「小中学校教員の勤務に関する意識及び実態調査－多忙化を解消し教育を充実させる」を発刊します。

過去3回の報告書では、「校内研修（小・中学校別）」及び「全国学力・学習状況調査（小学校）」に関するアンケート調査を実施した結果をまとめ、皆さんのお手元に届けました。

今年度は、勤務に関する意識及び実態調査をアンケート形式で実施しました。そして、過去3回と同様に調査結果を考察し、多忙化を解消し児童生徒の教育を充実させ、充実した教員生活を送るため、4つの視点から提言をまとめ報告書としました。

新潟県教育委員会は、「子どもたちと向き合う時間確保のために多忙化解消アクションプラン」を平成22年7月に、また新潟市教育委員会は、「教職員が子どもと向き合えるゆとりを生み出す行動計画－『学力・体力に自信をもち、心豊かな子ども』を実現するために－」を平成23年3月に策定しました。

現在、各学校では、こうした新潟県教育委員会、新潟市教育委員会が掲げた「多忙化解消に向けた10の点検」や「多忙化を改善する9つの視点」を基に、多忙化解消に向け取り組んでいます。

加えて、今回の報告書にある「調査結果の考察」及び「多忙化を解消するための4つの提言」を、多忙化を解消し児童生徒の教育の充実に向けた取組の参考にいただければと思っています。

教育行政、各学校、個々人が連携した取組を基本としながらも、それぞれの立場でやるべきことを確実に成し遂げるならば多忙化が解消され、教員の家庭生活にもゆとりが生じ、その結果として学校教育が充実・発展していきます。

子どもたちの健やかな成長のため、本調査報告書を最大限に活用していただけることを願っております。

目 次

刊行にあたって

I 章 調査の概要	7
1 調査の趣旨	9
2 調査対象及び人数	9
3 調査の時期	10
4 調査の観点及び調査項目	10
5 調査方法	10
II 章 調査の集計結果	11
1 回答者の年代，性別，勤務校について	13
2 週休日の過ごし方について	14
3 日頃の勤務について	18
4 日頃の教育活動について	22
5 学習指導要領の実施にあたって	28
III 章 調査結果の考察	31
1 週休日の過ごし方について	33

(1) 週休日に家で学校の仕事をしているか	33
(2) 週休日に学校に出かけ部活指導をしているか	34
(3) 週休日に心身のリフレッシュができるか	35
(4) 週休日に趣味を楽しんでいるか	36
(5) 週休日に地域行事に参加しているか	37
(6) 一月の週休日のうち研修や部活指導等で家を 空けるのは何日か	38
(7) 週休日は何をして過ごしているか	39
2 日頃の勤務について	40
(1) 会議削減の取組は効果があるか	40
(2) 行事精選の取組は効果があるか	41
(3) 研究発表会の参加を減らすことに賛成か	42
(4) 平日に家で学校の仕事をしているか	43
(5) 平日の出勤時刻は勤務開始のどれくらい前か	44
(6) 平日の退勤時刻は何時頃か	45
(7) 教材研究や授業準備はいつしているか	46
3 日頃の教育活動について	47
(1) 教員生活の満足度はどのくらいか	47
(2) 自分の指導力向上の取組をどう思うか	48
(3) 日々力を入れている教育活動は何か	49
(4) 日々困っている教育活動は何か	50
(5) 教育活動を進める上で困っていることは何か	51
(6) 自由に使える時間が増えたら何に使うか	52
(7) どんな時にやる気がでるか	53

4	学習指導要領の実施にあたって	54
(1)	学習指導要領の改訂で授業時数や内容が増えたこと によって児童生徒の負担が大きくなると思うか	54
(2)	日頃の授業の中で思考力・判断力・表現力等の能力が 育っていないと感じていたか	55
(3)	小学校3年からの「外国語活動」導入をどう思うか	56
Ⅳ章	充実した教員生活のための提言	57
	－ 多忙化を解消し教育を充実させる －	
1	提言にあたって	59
(1)	忙し過ぎる教員	59
(2)	多忙化に対する対応	59
(3)	提言の基本的な考え方	60
2	多忙化を解消するための4つの提言	61
(1)	提言1 支え合い磨き合う人間関係をつくる	61
(2)	提言2 計画的かつ能率的に仕事をする力を高める	62
(3)	提言3 部活指導を「ワーク・ライフ・バランス」 の視点から見直す	63
(4)	提言4 長期休業中は個人研修を中核に据える	66
Ⅴ章	アンケート調査用紙	67

新潟教育研究所の教育調査の紹介